

## I 新しい時代に、県立図書館は必要なのか？

### 1 県立図書館を取り巻く現状からの考察 ～「図書館って、何するところ？」～

#### (1) 取り巻く現状

- ・入館者・貸出冊数の減少傾向（全国，県） > 人口の減少ペース
- ・デジタル化の進展  
本→ 電子書籍，情報→ インターネット，研究資料→ 公衆送信
- ・県立図書館が立地する鹿児島市には，市立図書館が2館，公民館図書室もある。

- 県立図書館が，県民にとって「本を読んだり借りたりできるところ」という意識だけであれば，県立図書館の必要性は低くなる。

#### (2) もう一つの課題

- ・蔵書が現在92万冊。年間の増加冊数を抑えても，所蔵能力の限界が近づく。
- ・資料受入基準の見直し，収容スペースの確保  
→ 蔵書構成，空間構成，図書館サービスの見直しの必要性。

- 「県立図書館って、何するところ？」＝「県立図書館の役割や意義」が明確にならなければ，県立図書館の必要性は低くなる。

### 2 県立図書館の果たすべき役割は何か？

#### (1) 図書館法，図書館の設置及び運営上の望ましい基準から

- 市町村立図書館への支援
- 資料及び情報の体系的な収集，整理，保存及び提供
  - ・郷土資料，地方行政資料，市町村立図書館の求めに応じた資料保存
- 図書館サービスの充実・高度化
  - ・貸出，予約，複写
  - ・蔵書検索，レファレンス/レフェラルサービス
  - ・課題解決支援
  - ・多様な利用者対応
  - ・学習機会の提供
  - ・ボランティア活動

#### (2) 学校教育における学校図書館の機能，社会教育における図書館の機能

- ・学校図書館は，児童生徒にとって，  
「読書センター」「学習センター」「情報センター」である。
- ・県立図書館は，県民にとって，  
「読書センター」「学習センター」「情報センター」であることを周知し，  
県民に理解してもらう必要がある。
- 県立図書館 = 県民の課題解決的な学びを支える拠点
  - ・豊富な資料
  - ・資料の知識を持つ職員
  - ・交流の場

新しい時代にこそ，県立図書館は必要である。

## II 県立図書館には、何が必要なのか？

### 1 県民や市町村立図書館・室が県立図書館に期待するもの

#### (1) 県民へのアンケート結果から、期待度の高いもの

- ・ 図書の充実 ・ 市町村立図書館との連携 ・ 課題解決支援 ・ 多様な学習機会
- ・ 来館困難者への対応 ・ 郷土資料の充実 ・ 児童の読書活動推進 ・ 電子書籍

#### (2) 市町村立図書館・室へのアンケート結果から、期待度の高いもの

- ・ 電子図書館サービス ・ 市町村間の物流システム ・ 職員研修

- 県民が等しく図書資料を利用するための資料とシステムが充実していること。
- 県民・公立図書館の課題解決を支援する資料、職員、機会が充実していること。
- 郷土、子供の読書活動推進に関する資料や情報が充実していること。

### 2 主体的で対話的な自主組織の立ち上げ

#### (1) 喫緊の課題への対応

当館所蔵資料の増加冊数の抑制と収容スペースの確保を目的とした「これからの県立図書館の在り方検討委員会」を令和4年12月に立ち上げた。

総務課、資料課、奉仕課の職員を横断的に再編成し、「各種基準」、「収容スペース」という二つの専門部会で協議し、連絡会で調整後、検討委員会で決定した内容を即時実行した。

#### (2) 今年度の検討委員会

「サービス・支援」を加えた三つの専門部会により、これからの県立図書館の在り方について検討を重ね、令和7年度からの新しい基本的運営方針に反映させる。

### 3 これからの鹿児島県立図書館

#### (1) 鹿児島県の資料・情報・人をつなぐ拠点として

- かごしまの過去と未来をつなぐ … 郷土資料・地方行政資料の収集と保存
- かごしまの問いと答えをつなぐ … 課題解決を支援する職員と資料・情報
- かごしまの人と人、情報をつなぐ … 交流によって新たな知を創造する場

#### (2) 各種機関と有機的につながる拠点として

生活に、仕事に、学びに、「役立つ」図書館 … 情報の収集と提供、紹介

#### (3) 学校教育、学校図書館と公共図書館を連続的・発展的につなぐ拠点として

学校図書館関係者への三つの機能の重要性に関する指導と助言

→ 子供から大人まで、課題解決的な学びを支える図書館

県立図書館の活用に関する県民への広報と実践

新しい時代のかごしまを支援する、新たなビジョンが必要だ。